

# 学校だより

Vol. 86  
2009.4

## 奨学制度

学業・人物ともに優秀で、経済的に困難な学生は、選考のうえ、奨学金の貸与を受けることができます。奨学金には日本学生支援機構(旧日本育英会)の他に、地方公共団体・民間育英団体の奨学金があります。

日本学生支援機構奨学制度は、人物・学業が特に優れ且つ、経済的に修学が困難な学生に対し、無利子又は有利子で学費の貸与を行う制度で、校長の推薦を得て日本学生支援機構で奨学生を決定します。奨学金は、採用年度、自宅・自宅外通学で異なり、貸与期間は5年間ですが、成績不振や性行状況が奨学生として不適なときは交

付が打ちられます。種類は、定期採用と定期外採用(家計急変時に採用)があり、日本学生支援機構からの通知があり次第、掲示等でお知らせします。借用額は、定められた期間内に返還しなければならず、返還を怠ったときは延滞金が科せられます。また借用額は相当額になるので、申請に際しては充分考慮してください。

その他の奨学制度には、福島県、いわき市他市町村、戸部育英会、あしなが育英会、交通遺児育英会等の奨学制度がありますが、これについても、通知があり次第、掲示等によりお知らせします。

## 授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は家計・学力・人物について免除選考基準により、学生委員会で審議しますが、自宅謹慎処分を申請前の6月以内に受けた者、原級留置の者、修業年限を越えた者は、病気・留学など特別な事由があ

ると認められた場合を除き免除の対象にはなりません。

授業料免除の申請時期は、前期分は4月上旬、後期分は9月中旬になっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配布し、あわせて申込み締切り日についてお知らせします。なお、説明会の日程については掲示・放送および学級担任・専攻長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL: 0246-46-0734

## 行事予定

### 4月

- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| 4日(土) 開寮               | 15日(水) 基礎学力標準試験(数学)          |
| 5日(日) 入学式              | 16日(木) 定期健康診断(臨時休講)          |
| 6日(月) 始業式              | 20日(月) 受講届提出日(専攻科)           |
| 新入生オリエンテーション           | 22日(水) 第1回TOEIC IP試験(5年、専2年) |
| 健康診断(5年・専2年)           | 寮防災訓練(1年生)                   |
| 専攻科ガイダンス               | 基礎学力標準試験(数学)予備日              |
| 寮歓迎夕食会                 | 25日(土) 寮耐久レース                |
| 7日(火) 前期授業開始           | 27日(月) 開校記念日                 |
| 9日(木) 特別オリエンテーション(専1年) | 29日(水) 公開授業(月曜授業)            |
| 10日(金) 工学実験ガイダンス(専1年)  | 30日(木) 学生総会                  |
| クラブ紹介                  |                              |

### 5月

- 11日(月)~15日(金) 専攻科推薦入試・社会人入試願書受付
- 13日(水) 基礎学力標準試験(化学)
- 全校・校外清掃日
- 20日(水) 後援会総会
- 春季学級懇談会
- 寮保護者会
- 22日(金) 専攻科推薦入試・社会人入試
- 25日(月) ~6月5日(金) 前期中間試験

### 6月

- 8日(月)~12日(金) 専攻科学力入試願書受付
- 10日(水) 第2回TOEIC IP試験(4年、専1年)
- 19日(金) 専攻科入試(学力)

### 7月

- 1日(水) TOEIC説明会(3年、専1年)
- 3日(金) 臨時休講(開校記念日振替)
- 4日(土) ~5日(日) 東北地区高専体育大会
- 22日(水) ~24日(金) 編入学(推薦)願書受付
- 24日(金) ~30日(木) 前期末試験

## 編集後記

今年も卒業式を迎える頃となりました。5年間を高専で学んだ学生が巣立っていくのは、嬉しくもあり悲しくもあります。広報の仕事をするようになってから、本校の学生が本当に様々なところで活躍していることを知ることになったため、なおさら強く感じるようになりました。この想いを少しでも皆様にお伝えできるように、今後も広報活動を頑張っていきます。

今回の誌面では「はなむけの言葉」として、担任以外の先生からも卒業生へ贈る言葉を掲載したほか、「OBからのメッセージ」として、本校ご卒業の方に高専へのご意見を頂き掲載しました。さらに充実した誌面を目指してこれからも活動して参りますので、皆様からのご意見・ご要望がありましたら是非お聞かせください。

## Contents

- 02 第43回卒業証書授与式
- 第3回専攻科修了証書授与式挙
- 04 祝 卒業・修了
- 17 学生会
- 18 卒業生・修了生のみなさんへはなむけの言葉を贈ります
- 20 卒業生・修了生の進路状況
- 22 高専祭
- 24 学年・学科行事
- 26 学生の活躍
- 28 OBからのメッセージ
- 29 退職者の言葉
- 30 中学生ロボット競技会
- 31 とびっくす



# 第43回卒業証書授与式

## 第3回専攻科修了証書授与式 挙行

### 卒業生・修了生に贈る言葉

学校長 奈良 宏一

卒業・修了、おめでとうございます。卒業生の皆様はこの5年間、修了生の皆様にはこの2年間の勉学の努力が実り、ご卒業・修了となりましたことに心からお祝い申し上げます。福島高専で学んだことを基礎に、これから、社会でまたは大学・大学院で大いに活躍されることを祈念致します。

皆様が福島高専の教育理念の下で、福島高専で得た力、すなわち、

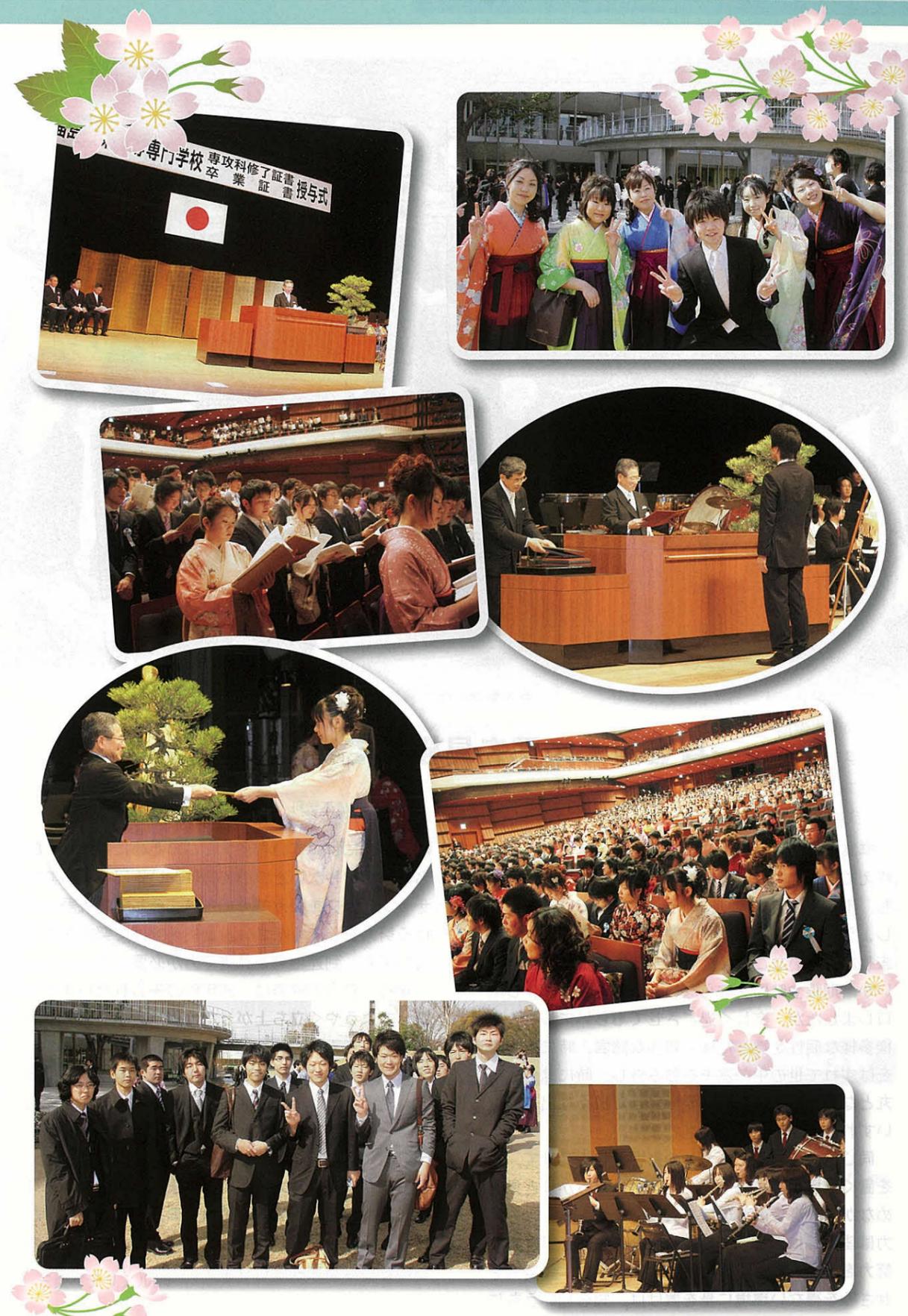
- ・ 広く豊かな教養と人間力
- ・ 十分な基礎力に基づく創造性と実践性
- ・ 国際的な視野とコミュニケーション能力

はこれからの人生で必ずや皆様の力になり、さまざまな難問・難題も克服できるに足るものと確信しています。自らの能力を信じて、すばらしい明日に向けて邁進して下さい。

無限の能力を秘めている若い皆様方に、「困難に向かって挑戦的であれ」と餞致したく思います。若者は、「挑戦」の精神を忘れてはいけません。常に、自分の能力のほんの少し上を見てください。自らを少しずつ高めることが、皆様の大きな成長につながります。謙虚さと誠実さを忘れずに、少し難しいことにも恐れず挑戦して下さい。少なくとも、技術者は、技術の進歩にしたがって、少しずつ自らを向上させる自己啓発を持続することが、技術者としての実力を維持することにつながります。

最後に、福島高専は皆様の母校です。困ったときには、いつでも、福島高専に相談にきて下さい。皆様を育てた先生方が再び頼りになる存在になってくれます。また、同級生は皆様の一生の友達であり、困ったときにはお互いに助けになります。福島高専を離れた後も、機会ある度に、福島高専の仲間を思い出し、連絡を取り合ってください。

これからの皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。





## 身を置く集団を見極めてください

機械工学科 5年担任 渡辺 敏夫

卒業おめでとう。長かった5年の学業をようやく終えて、就職、進学等の別々の道に進む出発点に立ち、不安や期待が入り交じった気持ちでいることでしょう。諸君たちとは3年間担任として関わってきました。幸いなことに諸君たちとは波長があったせいか、期限や時間を守らない人が多いには少し閉口しましたが、楽しく過ごさせてもらいました。多種多様な個性を持った種々雑多な諸君。時には常識をはずれて世の中の基準を踏み外し、時には全員一丸となってエネルギーを発散させた様々な出来事。いずれも懐かしく思い出されます。

同じ環境にいと、全体の影響を強く受けて、身を置く環境が人を育てます。今後、しっかりと見極めながら、身を置く環境を選んでください。人の能力は皆平等に備わっています。その能力を引き出す努力をした人が、能力の高い人となります。努力をせざるを得ない環境に身を置けば、知らないうちに

能力が身に付いていきます。このためには、70~80%の努力をしないと行けない集団を選んでステップアップを図ってください。そして、視野を広げる努力をしてください。目的を掲げて努力をするにしても、到達地点を見抜く力が必要です。

現在、日本の経済は、90年代の失われた10年を克服してようやく立ち上がったと思ったら、アメリカ発のプライムローンに端を発した国際金融市場の混乱をきっかけに、未曾有の経済危機の最中にあります。諸君たちは様々な面で、これらの影響から免れることはできません。困難な状況におかれることが十分考えられます。しかし、諸君はこれらの困難に立ち向かってゆく力を蓄えてきました。温かく見守られながら教えを受けた教職員の方々の教えや、かけがえのない友達から受けた友情を支えに、これからのさらなる発展を祈ります。

## 運命の出会い

機械工学科 5年 Azizol bin Ahmad (アジソル)

はじめの頃、「どうして福島高専に来たの？」と、日本人の友達に質問されました。

その時私は福島高専に入ったばかりで、うまく理由を説明することができませんでした。私はただ「日本の技術を勉強したいから」と答えていたのですが、実際、子供の頃に日本のアニメを毎日よく見ていたことから、日本を身近に感じており、日本に行きたいという夢を抱いていました。そして母国で2年間、一生懸命に日本語を勉強した結果、やっと日本に来ることが出来ました。

しかし日本に来る前、私には色々な不安がありました。まず、海外に行ったことがなかったので、留学生活というものがかんまりませんでした。また、私にとって勉強だけすればいいという訳ではなく、日常生活での友達が必要だと感じていました。

機械工学科3年のクラスに入ったとき、みんなは笑顔で色々なことを教えてくれて、私は嬉しかったです。そして、何日か経つと私の不安もだんだんなくなってきました。いい先生、いい友達、いい先輩から色々なことを教えてもらって、高専での生活にも慣れてきました。

みんなとの出会いは「運命の出会い」です。高専での3年間の生活は長いようで短い時間でした。私の同級生には色々な人がいて、彼らと3年間一緒に学校で勉強して遊んで、とてもいい思い出になりました。

最後に、先生方や友達に心から深く感謝しています。皆さんのおかげで、私の生活が変わりました。そして、後輩の皆さんへ一言、「勉強と学生生活を頑張ってください」。高専での思い出は一生忘れられません。私は卒業後、国で就職して一生懸命やっていきたいと思います。福島高専は最高!!!

## 卒業するにあたって

機械工学科 5年 安齋 裕也

入学式に臨むとき、「どんな人がいるんだろう。5年間やっていけるかな。」と思いながら、人見知りをし、新しい環境が苦手な私にとって、この時期は正直苦痛でしかありませんでした。

斜め前の席の人は、見るからに小さな不良。隣の席は、見るからに同じ中学校の人。慣れない寮での共同生活。極限まで追いつめられた精神状態で母からもらった「いってらっしゃい」のメールに涙したのは内緒の話。うららかな春の季節とは対比的に、そんな暗い高専生活が始まったのです。

そして時が経つのは早く、この文章を書いている今日の日は、切ぎりぎりの3月2日。1ヶ月後には就職して、また暗い生活が始まるのかと思うと多少鬱です。でも、5年前がそうだったように、いつの間にか働く事にも慣れ、くだらない事で笑っているんだろうなと考えてみると、卒業してみんなと別れる寂しさもちょっとは紛れます。

## 卒業生進路一覧

※ ( ) 内は人数

福島高専専攻科 (3名) 長岡技術科学大学 (5名) 豊橋技術科学大学 秋田大学 宇都宮大学  
千葉大学 東京工業大学 横浜国立大学 京都工芸繊維大学  
㈱JAL航空機整備成田 朝日インテック㈱ ㈱エヌ・ティ・ティ・エムイー 上板塑性㈱ キヤノン㈱  
㈱小松製作所 東北ネチ製造㈱ 東北リコー㈱ 東レ㈱ パナソニック環境エンジニアリング㈱  
㈱日立製作所 ㈱フェニックスエンジニアリング ㈱富士通アドバンスソリューションズ  
三菱マテリアル㈱



## 担任としての思い出

電気工学科 5年担任 小泉 康一

無事に卒業できた5年生の学生諸君、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様にも、卒業おめでとうございます。

私が担任を任されたのは3年前、皆さんは3年生で、教室も別棟にあり服装も制服姿で、今とは違った雰囲気でした。まだまだいろいろな部分で大人に任せきりという感じであって、学生というよりは生徒という言葉のほうが似合っていたような気がしていました。その一年も無事終わり皆さんが4年生に上がるころには、すっかり皆さんの様子が変わって見えたことを覚えています。今、5年生も終わり、ますます成長した皆さんを見てると、感慨深いです。クラスの雰囲気も、和気あいあいとして実に良いことでした。

勉学に関しては、わずか5年間で普通高校や並の大学以上のことを学ぶ必要がありました。それを実現するのは並大抵のことではありません。試験時ともなれば時には教え、時には教わり、夜中まで勉強

している姿が見受けられ、感心しました。

体を動かすことにも余念がなく、休み時間ともなればキャッチボール、野球、サッカーなど多趣味に活動していました。時には問題を起こすこともありましたが今となっては些細なことでしょう。

その他、工場見学や球技大会、高専祭などの様々な行事にも皆さんは積極的に参加し、勉学の息抜きとして十分に楽しんでおりました。私もこれらの行事と一緒に参加できまして、とても楽しむことができました。

最後にアドバイスを。就職、進学に関わらず、学校で生活した経験は必ず生かされる場面があります。挨拶は人のためにするものではありません。毎日の掃除や毎週の当番などは重要です。困ったときは人に相談して、悩みをためないことです。

新天地で落ち着きましたらぜひ連絡をいただけますとうれしいです。

## 高専生活を振り返って

電気工学科 5年 根本 有亮

今振り返ってみると、5年間の高専生活はとて短かったように感じる。

まず、高専生活の中で一番苦労したのが実験のレポート課題だった。特に2年生のころはレポートをやるのが遅く、提出期限当日に友達と学校に残って、焦って仕上げ提出したのがとても印象に残っている。特に低学年のころは勉強に慣れず苦労したが、5年間の勉強を通して電気に関する知識をとても身につけることができ、ものづくりや卒業研究に生かすことができたと思う。

また、学業以外にも、昼休みには友達と毎日のように野球をしたり、放課後にもトランプをして遊んだり、とても充実した学校生活を送ることができたと思う。在校生の皆さんも、現在、部活や勉強、進路の決定などで大変だと思うが、5年間の高専生活を十分に楽しんで送ってほしいと思う。

最後に、これまでは学生として比較的自由な生活を送ってきたと思うが、4月からは就職して、社会人として生活していく。そのため、気持ちを切り替え、今までの学校生活で学んできたことを生かしてこれから頑張っていきたいと思う。そして、今までお世話になった先生方に感謝致します。

## 5年を振り返って

電気工学科 5年 蛭田 章由

5年という時間。気がつけばあっという間だったその時間も、思えばいろいろな事がありました。何気ない日常や、高専祭をはじめとした大イベント。様々な場面を通して時には笑い、時には泣き、多くの感情に触れてきたと思います。

そんな中、私が一番力を入れてきたことはものづくりに関することであり、こうして振り返った中でも一番印象に残っています。部活として頑張ってきたロボット技術研究会での活動には始まり、4年生時のモノづくり、5年生時の卒業研究。人を楽しませる玩具や目的のものを測定する装置など、様々なものを作ってきました。目的の動作をするものを作り上げるために仲間と協力しながら試行錯誤することで、専門的な技術だけでなく、これから社会人として必要な忍耐力、コミュニケーション能力などを楽しみながら学ぶことが出来たと思っています。

最後になりましたが、私が在校生に伝えたいことは「やりたいことを全力ですること」です。好きなことに全力投球することで、限られた高専生活を満足してもらいたいと思います。それによって、私のように福島高専に入学したことを幸せに思えればと思います。

## 卒業生進路一覧

※ ( ) 内は人数

福島高専専攻科 (8名) 豊橋技術科学大学 茨城大学 宇都宮大学 富山大学 京都大学

九州工業大学

(独)国立印刷局 (独)産業技術総合研究所 曙ブレーキ工業(株) (株)エヌ・ティ・ティ・エムイー

キャノン電子(株) 堺化学工業(株) ソニーイーエムシーエス(株) ソニーエナジー・デバイス(株)

ダイキン工業(株) 東京急行電鉄(株) 東京地下鉄(株) 東京電力(株) (株)東芝社会システム社 東新工業(株)

東北電力(株) パナソニックITS(株) 日立情報通信エンジニアリング(株) 富士通(株)

三菱電機ビルテクノサービス(株)



## 祝卒業、いざ出陣

物質工学科 5年担任 酒巻 健司

卒業おめでとうございます。タイトな学業におわれ、学び舎を離れなければならない、との実感はまだ沸いていないのではないのでしょうか。卒業証書を授与された喜びは、きっと皆さんしか味わえない感動だったと思います。

様々な校務分掌の中で、最も大事なことは何か、と問われたならば、それは、卒業生の就職・進路先を決めること、と思います。3年次の年度始めには、全員卒業を目標に掲げ、4年次進級を、皆さんよくやってくれました。4年次のインターンシップの応募時点から、就職・進学モードになり、5年次4月初旬に最初の内定を勝ち、その後TVコマーシャルでよく知られているメーカーからの内定が続き、新しいメーカーも開拓しました。就職戦線は5月末にほぼ終わり、本校が(独)国立高専機構に属する全国区であることを再認識しました。本年度は60%の高

い進学率で、専攻科の推薦入試から幕をあげ、8月末まで推薦・学力試験が繰り広げられ、特に学力試験において学生は力を発揮してくれました。最後まで忍耐強く公務員試験に臨んだ学生もおります。担任が当初予測していた以上の結果をそれぞれの学生が挙げてくれました。これもひとえに、御指導いただきました教職員の皆様のお蔭でありますこと、学生と共に厚く御礼申し上げます。

365x3=1,095の千日修行において、一人一人の学生達の高い資質が生かされるよう、学生の希望が叶うように、自省しながら願望を込めて、特に就職・進学は、慎重を期して臨んだ次第です。高学年の学生は少し過保護な環境にあることを危惧しておりますが、就職・進学を自らの手で勝ち得た学生達が今後、益々活躍してくれることを確信しております。

## 部活中心

物質工学科 5年 伊藤 江里奈

靴の中はジャージと弁当と財布。勉強道具一切なし!!勉強はテスト直前だけでいいんです!成績悪いから部活やめようとしてる人は、その考え方をヤメましょう!部活やめて成績上がる人はほとんどいませんから。

冬休み4人で準備体操したこともあったね。コレだけ人が少ないと、このころ来ている部員とは絆が深まるものです。「仲良くなることは絶対対ないだろう」と思っていた先輩が、今では心から尊敬する人です!だって見た目怖いんだもん。でも話してみないとわからないものですね。就職に決めたのも先輩の影響です。

練習では男子のペースについていけない自分が悔しくて泣きそうになったこともありました(;;)でも、限界を超すか超さないかってくらい練習したときの充実感は最高です!あの「やってやったぜ!」ってかんじがたまらない(笑)

学校で学ぶことは勉強だけじゃないですよ!女子の先輩に叱られたこともありました。ハッキリ言ってくれる人ってなかなかいないし、社会に出てからそおいうことしないですんで良かったなって思いますね!感謝!部活の思い出と学んだことを語りだしたらキリがないので…以下省略w

ようするに一ぜひ高専生活、部活に狂ってください!きっと何か大切なものが見つかりますよ。

## 高専で学んだこと

物質工学科 5年 佐々木 翔悟

今、これを書いていて思うことは、この1年の色濃さです。

入学した頃、5年間なんて長すぎてやっていけないんじゃないかと思っていました。

テストの赤点も60点と高く、留年の不安もありました。しかし、今振り返ってみるとなんだかんだ頑張ってきたなあ、と感じます。この5年間で、辛い事や苦しい事はたくさんありました。しかしその度に、「成せば成る」の精神で自分ができる精一杯のことをやってきました。その結果、就職も無事に決まり、卒業研究も何とか完成しそうです。精一杯頑張ることで、辛い事等もいつの間にか楽しくなったり、やりがいを感じ始めたりと、プラスの方向に動き出すことをこの5年間で何度も感じました。「できない、無理なんじゃないか」と思ったらきっと物事はうまく運びません。しかし、「できる、やれるんじゃないか」と思って物事に取り組めば、自分の納得のいくような答えがきっと返ってくるんだということを学んだ気がします。

これからも辛いことや苦しいことはたくさんあると思いますが、その度精一杯努力し、その先にある成功や幸せを掴めたら良いと思います。

最後に、僕と関わりのあった人達へ。たくさんの思い出をありがとう!みんなと関わりを持てたこと、とても大事な宝物です!

## 卒業生進路一覧

※( )内は人数

福島高専専攻科(5名) 長岡技術科学大学(3名) 豊橋技術科学大学 山形大学 筑波大学  
宇都宮大学(2名) 群馬大学 千葉大学 東京工業大学(2名) 岐阜大学 新潟大学  
名古屋工業大学 金沢大学  
いわき市役所 J S R(株) 小川香料(株) 生化学工業(株) 第一三共プロファーマ(株) 中外製薬工業(株)  
(株)ツムラ 東京電力(株) 東レ(株) (株)日本色材工業研究所 富士フィルムファインケミカルズ(株)  
松下電工(株) 明治乳業(株) 和光純薬工業(株)



## シビル10回生へ

建設環境工学科 5年担任 原田 正光

ご卒業おめでとうございます。

4年次に担任を交代したとき、学業も大事だが、それよりも周囲と協力し合って一つのことを成し遂げることができる人間に育って欲しいということを強調し、2年間ことあるごとに繰り返し伝えてきました。

振り返ると、このクラスはとても仲がいい集団だったのではないかと思います。クラス役員の呼びかけにはとても良く応じてくれたし、校内体育大会では建設環境工学科の総合優勝に大きく貢献してくれました。学年行事などではみんなが協力し合って有意義な企画にすることができたのではないのでしょうか。5年間同じクラスで過ごす福島高専の特徴を十分に活かしてくれました。

この4月からは5年前と同じように、またひとりで新しい環境での歩み出しを行わなければなりません。

ん。その集団の中で自分の位置を見極め、自分がどのように行動すべきなのかを考え、目標達成へ向けて邁進する協調性や行動力が要求されます。場合によってはそれが短期間のうちに要求されることも多く、高専生活に慣れたみんなにとっては戸惑いを感じることも多いのではないかと思います。しかし、5年前とは違いみんなは成長しましたから、高専で培った人間力を十分に発揮し活路を見出していくことができるものと確信しています。ただどうしても何か心を癒したい気持ちになるところがあったら、遠慮しないで遊びに帰って来てください。

最後に、担任としては2年間だけの付き合いでしたが、十分に楽しい思い出をさせてもらい、みんなにはとても感謝しています。これから先みんなの成長もとても楽しみにしていますので、健康に気をつけて頑張ってください。

## 振り返れば

建設環境工学科 5年 石川 周

このクラスにはいろんな人がいました。入学から半年で学校から卒業してしまった人、隣のクラスで勉強を頑張る人、1,000人の前で勇気ある行動をとった人など、ホントにいろんな人がいました。

入学当時、長いと思った5年間も、今になってみると…やっぱり長いものでした。振り返ってみれば、恐怖でしかなかった対面式、白熱したドッジボール、自分を追い込んだテスト前の本気のバスケ、さらには異文化交流と、とにかくいろいろなことがありました。また、高学年になってからは、売れて嬉しいじゃがバターと、売れずに困った田楽を作ったり、情報化社会の恩恵を受けたレポートや、結局は残骸であるレポートをたくさん作りました。体育大会では、クラス全員の応援体制のおかげで優勝できたこともありました。なんだかんだ言っても、祭り事には一致団結できるこのクラスはとてもいいクラスだと思います。2年の時に作った絆Tシャツは、今ではヨレヨレになっていますが、このクラスの絆は変わらないものであると信じています。

最後に、5年間先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございます。そして、クラスのみならず、本当にありがとう。

## 当たり前の日常にありがとう

建設環境工学科 5年 馬目 佳娘

「人の本質を知るには約5年の歳月が必要」という話を聞いたことがあります。けれど私はこの5年間で、本質を知るところか、毎日が新しい発見の連続でした。友人達の新しい一面を知ると同時に、新しい自分にも出会うことができ、この歳になって改めて「学校」の大切さを学んだような気がします。

時には、子供でもなく、けれど立派な大人にも成りきれない現実の中で悩んだりもしました。どうしようもない怒りをぶつけたこともありましたが、けれどそれ以上に、大切な友人達と心から笑い合うことができました。入学当初抱えていた不安は、いつしか愛着へと姿を変え、今では確実に進み始めているそれぞれの時間にもどかしささえ感じます。何気ない会話、休み時間、テスト期間の勉強会。そんな「当たり前」が大好きでした。

6度目の桜は別々の場所で見ることになりますが、自分らしい立派な花を咲かせて欲しいと思います。それぞれが進む道で、素晴らしい「当たり前」に出会えますように。

いつかこれを読み返す機会があった時に、少しでもこの5年間のことを思い出してくれれば幸いです。ありきたりな言葉ですが、5年間本当にありがとうございました。

## 卒業生進路一覧

※ ( ) 内は人数

福島高専専攻科 (5名) 長岡技術科学大学 (3名) 豊橋技術科学大学 (3名) 岩手大学 秋田大学  
茨城大学 (3名) 宇都宮大学 (2名) 首都大学東京  
いわき市役所 (株)INAX (株)いわきコピーセンター いわき信用組合 (株)エヌ・ティ・ティ・エムイー  
(株)クリタス 五洋建設(株) 常磐開発(株) 電源開発(株) 東京ガス(株) 東京電力(株) 東北電力(株)  
(株)日水コン 東日本測量(株)



## 自分の道は、自分で拓け

コミュニケーション情報学科 5年担任 島村 浩

卒業おめでとう！ようやく卒業証書を手にしたことができた。本当によかった。努力の成果を噛みしめてほしい。と同時に自分一人では成し得なかったことを心に刻んでおこう。

さて、卒業にあたり今までを振り返ってみたい。君達の人生の5年間。20歳の1/4。小学校の次に長く通った学校。ここで何を学び、何を得たのか。確かに勉強はした。しかし、それだけで、これからの人生を生きていけるわけではない。その量はあまりにも少なく、質は全く頼りない。それに各自の進路によって必要とされるものが違う。元になっているだけで、完成などされてはいない。これからと言ってもいい。まだまだ十分ではない。しっかり頑張ってもらいたい。

この一年で、世の中が随分と変わった。拡大から一転して縮小だ。今までの常識など通用しない。教科書的な答えなど役に立たないだろう。こんな時に

必要な力とは一体何だろう。

過去、歴史の中には優れた才能を発揮した人物が大勢いた。あまり古くないところで白洲次郎という人物を挙げる。敗戦という激動の時代を生きた人だ。最近NHKでも放送された。若いときは乱暴者で手がつけれなかったが、10年間にもおよぶ英国留学で、人間の基本を身に付けた。面白い話がある。開戦とともに、働いていた水産会社を辞め、農業をはじめた。東京が焼け野原になり、そのあとに食糧危機が来ることを読んでいたという。彼が、戦後の復興に大きな力を発揮できたのは、このようにしっかりと「自分の頭で考える」ことができたからではないか。これからの時代も、先を読み、自分の頭で考えることが、唯一の生き残りの方法ではないだろうか。

大変だが、自分の人生だ。一生懸命やればよい。自分の人生は、自分の手で切り拓け。そして、その苦労話を肴に酒を酌み交わそうではないか。

## 1億2,000万分の40の輝石

コミュニケーション情報学科 5年 赤津 沙希子

皆さんは、奇跡を信じますか？私は信じていませんでした。このクラスに出会うまでは。

私たちのクラスは「なんとかなる」が合言葉。締切日=取り掛かる日。女子が多いのに、ほぼ少数の男子が原因で教室が汚れ、ネズミさん、ゴキブリさん、しまいには犬も登場しました。ロッカーのなだれ被害も多発し、何度掃除をさせられたかわかりません。でもみんなやればできる子で、学校行事は並ならぬ団結力を発揮しました。だが褒められると自惚れるタイプ、すぐにペースを失速するのもこのクラスの特徴。5年生になってもある先生に「高校生に毛がはえたもん」呼ばわりされる始末でしたが、卒業間近にはみんなの眼差しは段々大人に近づいていったように感じます。でも、最後まで遅刻者は絶えませんでした。

私は、この年代にいわき市に生を受け、コミ科のこのクラスの一員になるに至る環境を作ってくれた両親に、今大変感謝しています。

また、こんな問題児クラスを最後まで面倒を見てくださった先生方、本当に有難う御座いました。

最後に、5コミの皆さん。これが最後ではありません。だから、卒業だからと悲しまないでください。私たちは、これからも永遠にクラスの仲間なのですから。

## 卒業、そして未来へ

コミュニケーション情報学科 5年 小鍛治 宏将

この5年間は、光陰矢のごとく駆け巡った青春の日々でした。私がこうして今、「卒業」という2文字を噛みしめることができるのは、周囲の方々の支えによるものです。

私の高専生活の思い出は、クラスメートに始まり、クラスメートで終わると言っても過言ではありません。テスト前やレポート、長期休業中の課題、卒業研究や学校行事などすべてを支えてくれた皆さん、本当にありがとうございます。いくら感謝しても感謝しきれません。私が年収2億円以上の男になったときにはその恩返しを嫌というほどさせていただきます。ご予約承り中でございます。

授業中どんなにうるさくても温かい目で見守ってくださった先生方。私が卒業できるのも先生方の寛大な心のおかげです。本当にありがとうございます。将来の私に期待してください。

最後に、20年間私を守り、育ててくれたお父さん、お母さん、本当にありがとうございました。自慢の息子というわけにはいきませんでした。お父さんとお母さんの子供に生まれてきたことを誇りに思っています。

5年間のすべての思いをこの言葉に…。

「ありがとう」

## 卒業生進路一覧

※( )内は人数

- 福島高専専攻科(4名) 長岡技術科学大学 東北大学(2名) 福島大学(2名) 茨城大学  
 筑波大学 群馬大学 埼玉大学(2名) 新潟大学(2名) 神戸大学(2名) 奈良女子大学  
 駒澤大学 上智大学 会津大学短期大学部  
 外務省 高萩市 ㈱クレイジー・ティフィ NTTコミュニケーションズ㈱ アルパイン㈱(2名)  
 アルプス電気㈱ 小名浜石油㈱ ㈱常陽経営コンサルタンツ ㈱ソリトンシステムズ  
 ㈱平中央自動車学校 ㈱東邦銀行 日本モレックス㈱(2名) ㈱日立エイチ・ビー・エム  
 ㈱富士通アドバンスソリューションズ 郵便局㈱



# 祝 修了 機械・電気 システム工学専攻

## ユニークな個性の修了生へ！

専攻科修了おめでとうございます。専攻科ができて5年が過ぎ、4回目の専攻科終了を迎えることができました。専攻科が立ち上がった当初は、不備な点が多く学生諸君にも不満な点が多くありました。最近ようやく体制も整い、巡航速度で運営できているようです。

毎日の運営の中で専攻科のよい点を確認することが難しいですが、こうして立派な修了生が現実にも立っていき姿を目にする中で、専攻科の意義を実感します。専攻科はわずか2年の過程ですが、高専5年の本科の過程の上につながって、その実益がより効果的な成果となって現れてきているようにおもわれます。各学生諸君の成長ぶりを観察しても、わずか2年ですがその成長ぶりは頼もしく感じられます。特に今年の修了生は、ユニークな個性の持ち主ばかりでした。成績優秀で常識を身につけた品行方正な電気

機械・電気システム工学 専攻長 渡辺 敏夫

出身の面々、一方世の中の標準を少し斜めから見つめ、「適当」の言葉を自由に操り、世間を最小のエネルギーで最大の成果を得て渡ろうとする機械出身の面々。これらの学生がほどよく混ざり合い、互いに不足する部分を補い、全体として高い成果を出す絶妙のつりあいを持った集団でした。先生方とは常に互いの息が掛かり合う身近な距離で、日常の常識から専門の知識まで直接薫陶を受け、人生の教訓を教えて頂きました。

修了生諸君は全員希望通りの進路を取ることができ、更に夢がふくらんでいることでしょうか。大学院へ進学する人は更に深く学問を極め、社会に出て働く人は、社会に大いに貢献してください。諸君たちが残した様々な足跡は、専攻科の伝統として形作られ引き継がれてゆくでしょう。

## 高専で7年暮らすこと。あると思います!!

機械・電気システム工学専攻 2年 緒方 雄一

あなたがこれを読んでいるときには、僕はもういないでしょう。多分、新潟に引っ越していますから。(参考文献: 学校だより 2008年3月号)

終わってみれば、あつという間でした。高専の5年間は恐竜なら、専攻科の2年間なんて、ハエです。めっさ早かったです。

専攻科に入学したら即研究室を決めなくてははいけません。私はピン研に入りました。多分、↑に良いこと書いてるんじゃないでしょうか。渡辺先生には大変お世話になりました。私にこうやってメッセージを残して巣立たせてくれたのですから。専攻科に入って行ったことは研究、研

究、研究!!です。1つ目の研究にはポツポツが入ります。たこやき、僕はあなたを何万回ひっくり返したでしょうか。2つ目の研究には大学院への合格が入ります。こんな私を奇跡の大学院進学へと導いてくれたDSの鈴木茂和先生には大変お世話になりました。3つ目の研究には学位試験の合格が入ります。結果通知にある「可」の1文字。心にしみる良い漢字です。

高専での7年間、この道を選んで後悔する人なんているのでしょうか。在校生のみなさん、残りの生活を大切に。高専ありがとう！

### 卒業生進路一覧

※( )内は人数

福島大学大学院 長岡技術科学大学大学院 (2名)

福島県 防衛省 (株)日本原子力研究開発機構 常磐共同火力(株) 東京電力(株) (株)東芝 東日本旅客鉄道(株) 三菱重工(株)



# 祝 修了 物質・環境 システム工学専攻

## 専攻科の歴史つくらん

物質・環境システム工学専攻 専攻長 山ノ内 正司

皆さん専攻科修了おめでとうございます。

あつという間の2年間だったのではないのでしょうか。皆さんとはわずか1年の付き合いでしたが、授業にレポートにそして特別研究にいそむ姿を見て、本当に良くやっていると感心しました。修了証書、学位記、J A B E E修了証を手にする時の姿は、さぞかし達成感に満ちあふれていることでしょう。

専攻科生活2年間で培われたものは何でしょうか。専門性、複眼的視野、自己学習能力、プレゼンテーション能力…。受けた教育によって自分にどれだけの能力が付いたのか、実際渦中にある時にはなかなか分からないものです。しかし、折りに触れて実感できる日はそう遠くはないと思います。企画書や実験計画のプレゼンをする時でしょうか、あるいは何人かの後輩をまとめる立場に立った時でしょうか。

これからの楽しみの一つとして期待して下さいます。

40年の歴史を刻んだ本科の学生として入学した皆さんですが、専攻科生としてはこれからの歴史をつくるフロンティアの立場です。皆さんが大学生とは一味違う活躍してくれることが、専攻科教育の真価を証明することになると思います。特に母校専攻科のためと意識することも、またこのことを重荷に感じることも全く必要ありません。専攻科修了生としての誇りと自信を持って、そして学び求める心をさらに深化させ、淡々と進んでいってこれればそれでいいのです。皆さんの活躍すべてが、巡り巡って母校専攻科の歴史をつくる血となり肉となるに違いありません。

そしていつの日か、専攻科修了生の中から母校の教壇に立つ人が現れることを心から願っています。

## 今思っていること。

物質・環境システム工学専攻 2年 菅野 淳弥

親のような人たちだったと思う。

いい先輩に出会った。イライラが溜まる時もあったが、情に厚く、頼りがいのある兄貴たちだったと思う。

いい後輩に出会った。生意気な野郎共で、終始ナメられっぱなしだったが、割と素直で、根はまじめな子たちが多く、だんだんかわいらしくなってきた。

漠然としていて、自分自身一体何が幸福なのか分からないが、とりあえずみんなには幸福な人生を送ってもらいたいと思った。

それではさようなら。

### 卒業生進路一覧

※( )内は人数

東京工業大学大学院 大阪大学大学院

(株)クレハ (株)クレハ分析センター (株)西原環境テクノロジー 日立原町電子工業(株)

# 祝 修了 ビジネス コミュニケーション学 専攻

第1部『専攻科特別研究公開発表会』



## 目標はあくまでも高く！

ビジネスコミュニケーション学 専攻長 脇田 淳一

専攻科修了おめでとうございます。短い2年間ではありましたが、実感としては、その何倍かの中身の濃い2年間ではなかったでしょうか。福島高専の専攻科は、文系と理系が混在するユニークな課程です。文系のみなさんが経験した理系の世界はどんなものだったでしょうか。専攻科での理系の経験は、社会に出てからきっと役立つものと信じています。

さて、授業や研究で目一杯の活躍をしたみなさんは、今や遅くも成長し、頼もしい姿で校門を出て行こうとしています。その誇らしげな後姿に、はなむけとしてGeneral Electric社の社長であったJack Welchの言葉を少しアレンジして贈りたいと思います。

①目標はあくまでも高く掲げよ。

手の届かない目標であった方がむしろ好ましい。目標を達成するのが大切なのではなく、目標に挑戦する意欲

が大切なのだ。意欲が大きいほど得られる果実は大きなものになる。

②Aプラン、そしてBプラン。

Aプランで行こうと決定しても、頭の片隅ではBプランの事を考えていよう。この先何が起きるかわからないし、Aプランが成功する保証もない。これを逃げ道を作ったと考えてはいけない。同レベルの複数のプランを考案できる実力が肝要なのだ。

③そして何よりも自信を持って進め。

自信は不断の学習から生れる。広く知識(知恵)を求め、形式や慣習に捕われない柔軟な思考能力を獲得せよ。それが自信につながる。

それではみなさん良い航海を。

Bon Voyage!

## 高専での7年間を振り返って

ビジネスコミュニケーション学専攻 2年 蛭田 沙祐美

この3月で7年間過ごした学校を修了することになるわけですが、振り返ってみると7年間という月日は長かったようでとても短いものでした。小学校以上に通ったと考えると、ずいぶん長かったのだなと感じるのですが、実際にそんな感覚はなく入学してからあっという間だったと思います。特に専攻科に入ってからの2年間はめまぐるしく過ぎていきました。それは楽しいことも多かったし、大変なことも多かったからではないかと思えます。

専攻科で一番大変だったことは研究などの発表です。本科での研究発表は2回しかやりませんでした。専攻科ではポスターセッションや外部での発表など、いろいろ経験

することができました。今となってはいい思い出ですが、発表や提出物など重なったときは正直つらかったです。間に合わない、無理だなんて言いながらもなんとかやり遂げることができ、人間やれば乗り越えられるのだなとしみじみ思いました。

7年間慣れ親しんだ場所を離れ、4月からは新しい環境で新しい人たちと働くこととなります。とても寂しい気持ちでいっぱいですが、高専での経験を活かし、新たな気持ちで頑張っていこうと思います。

最後にお世話になった先生方、友人たちに御礼申し上げます。7年間ありがとうございました。

## 卒業生進路一覧

※( )内は人数

いわき市役所 (国)国立高等専門学校機構 (株)クレハ (株)サンモアテック 第一生命情報システム(株)  
(株)日立エイチ・ピー・エム (株)日立物流 (株)ベルテックソフト

# 学生会



## 学生会活動を振り返って

学生会長 機械工学科 5年 本名 嵩洸

私たちが入学した頃、とても輝いて見えた五年生。今、私たちは昔憧れた先輩になれたのでしょうか。

今年度の活動内容としては、学生総会、募金活動、高専祭などがありましたが、特に思い出深いのは、全国高専プログラミングコンテストと東北地区高専学生交流会です。全国高専プログラミングコンテストは、内容は名前のとおりなのですが、そのコンテストの中でせっかく全国の高専がいるわけですから、都道府県の壁をこえて仲良くなってもらおう、という交流企画を担当しました。また東北地区高専学生交流会では、福島高専からは私を含め、計4人が参加し、主管校八戸高専にて活発な意見交換がなされ、各高専の相互発展、そして他高専の学生達との新たな繋がり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

共通の仕事をする上で、助け合い、励まし合う。そんな学生会役員というメンバーは、

私にとって「友達」というより「仲間」と言う言葉の繋がりでした。そして、この学生会という場所で私は、新しいことへ挑戦することができました。これは、これから生きていく上で大きな経験になったと思います。

そしてぜひ、在校生の皆さんにも卒業したときに、胸を張って、これは頑張ったと言えるものをひとつで良いので、この高専生活の間に見つけてほしいと思います。もちろん学生会をやるもよし、部活動、委員会活動でもよし。「5年間はあっという間」です。あとで後悔することのない学生生活をおくってください。

最後になりましたが、学生会に携わって下さった諸先生方、またお世話になった学生課ならびに学生会役員、そして全学生の皆さん、本当にありがとうございました。母校となる福島高専の更なる飛躍を期待しています。

# 卒業生・修了生のみなさんへ

●福島高専から社会へ躍進するときが来ましたね。5年間あるいは専攻科生は7年間、専門について学び、技能は十分に身に付いたと思います。これまで修得した知識を出し惜しみせず、積極的に発揮できることを願っております。これからの人生にとって必要なことは創造力・実行力・責任感・自己分析だと思います。常に坂道を登る気持ちで邁進してください。修了・卒業おめでとうございます。

【機械工学科 佐東 信司】

●ご卒業おめでとうございます。「不易と流行」松尾芭蕉の言葉です。日々進歩する世界において、皆さんは常に最先端を追い求める仕事をされることでしょうか。しかし、一方で「不易（=普遍的価値）」も念頭に置かなければなりません。バランスの取れた思考をもって、勉強に仕事に励んでください。

【一般教科 高野 克宏】

●FLUCTUAT NEC MERGITUR（漂えど沈まず）漂っていても沈まなければ、人生、きっと良いことが巡ってきます。

【機械工学科 松本 匡以】

●卒業おめでとうございます。就職するとガラッと生活が変わります。同じ年代、同じ環境にいた仲間から、おおぜいの先輩に囲まれて新入生としての生活がはじまります。仲間も育った環境が違うだけでなくライバルです。昇進レースがはじまります。習うという受身の生活から、儲けを生み出すための行動が求められます。この環境の変化から逃げないでください。昨今の情勢では、一度辞めると新しい就職先を探すのは困難です。3年間がんばって、それでもくじけたら、自分のできそうな部署に変えてもらうと良いでしょう。高専出身の先輩を探してみてください。よき相談相手になってくれるはずですよ。卒業する皆様、日本の元気を取り戻すために活躍されることを願っています。

【建設環境工学科 金子 研一】

●卒業おめでとう。あつという間の5年間だったと思います。今の自分を反省し、お世話になった全ての方々へ感謝し、これからの長い人生をしっかりと生きぬいてください。健闘を祈ります！

【一般教科 根本 昌樹】

●ご卒業おめでとうございます。未来を変えるのは、大きな努力ではなく、小さな習慣です。皆さんのご活躍を期待しています。

【機械工学科 松尾 忠利】

●Luck comes when preparation meets opportunity. ご卒業おめでとう！

【一般教科 坂内 昌徳】

●卒業おめでとうございます。着任後一年間という短い間でしたが、皆さんと接することができ、私も色々学ばせてもらうことができました。昨今の社会は厳しい状態ですが、なんとかこれを乗り越えて、よい将来を開拓して行きましょう。

【コミュニケーション情報学科 米本 清】

●日本の産業界は、高専の卒業生と大学院修士課程の修了生で支えられています。高専の5年間で高校教育と大学の学部教育を受けた本科卒業生、そして高専の修士課程に相当する専攻科の修了生の皆さんの前途には洋々たる未来が拓かれております。若さと能力を生かして大いなるご活躍を祈ります。

【物質工学科 井上 和人】

●ご卒業おめでとうございます。ご活躍を祈念します。

【機械工学科 一色 誠太】

●自ら育つ人、周りから育てられる人、になってください。

【物質工学科 伊藤 正義】

●初めて担任したクラスが卒業することになり、とてもうれしく思っています。最も印象に残っていることは、2年生のときの校内体育大会です。前年の学年最下位からのトップでした。勉強もスポーツも徐々に良くなっていったクラスでした。これからも前向きに努力を続けて、さらに成長することを願っています。

【一般教科 西浦 孝治】

●本科ご卒業、専攻科修了本当におめでとうございます。私には、皆さんの在学中にお話しできなかったことが沢山あります。もし社会に出て「私は運が悪いなあ、かなわんなあ。」と思うようなことがあったら、私のところに来てください。皆さんの在学中に教えてあげられなかった「運をよくする方法」など（ちょっとあやしいか?）、お茶でも飲みながら教えてさしあげましょう。それでは、これからも元気で活躍して行って下さい。

【電気工学科 大槻 正伸】

●卒業おめでとうございます。短い時間だったとはいえ、みなさんと同じ時間を共有できたことに感謝しています。これから大学や会社で沢山の人の人に出会って、良い事も悪い事も経験すると思いますが、どうかその一つ一つの出会いを大切にしてくださいね。

【建設環境工学科 高荒 智子】

●とんでもない経済大波乱の中へ船出していく諸君。大臣、高級官僚、大銀行…権威あるものみんなあやしくなっちゃった。盲信せず、自分の足で歩き、自分の目で見て自分の頭で判断するしかないね。体を鍛え、ストレスに負けない胆力を培おう！健闘を祈る。

【一般教科 宮澤 泰彦】

●卒業はゴールではなく、新たなスタートです。活躍を期待します。

【物質工学科 天野 仁司】

●学校では理数系が得意な君たちでしたが、社会では文系の知識が大事になってきます。難しい公式を覚えるより簡単な文書が書けるように、暇を見て読書を楽しみましょう。

【建設環境工学科 緑川 猛彦】

●卒業、修了おめでとうございます。可能性を大切に育てて幸せになってください。皆さんのご活躍をお祈りします。

【物質工学科 内田 修司】

●この度のご卒業、本当におめでとう。心からお祝いを申し上げます。これからの皆さんの実り豊かな人生に幸多かれと祈ります。私の好きな山本有三の詩を贈り、はなむけの言葉と致します。

たった一人しかいない自分を  
たった一度しかない人生を  
本当に生かさなかつたら  
人間生まれてきたかいがないじゃないか

【電気工学科 渡辺 博】

●『笑う門には福来る』会った時に笑顔で挨拶されると嬉しいですね。今年卒業する人々には、笑顔が似合う人が多かったです。勉強とスポーツを継続して大きく成長し、また笑顔で学校に遊びに来てください。

【いつまでも若いつもりのおールド】

●卒業、修了おめでとうございます。4月から新しい生活が始まりますが、福島高専で過ごした日々、共に学んできた友人、そして今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、人柄の良い技術者となって世界で活躍して下さい。

【機械工学科 鈴木 茂和】

# はなむけの言葉を贈ります

●Chance favors the prepared mind. Louis Pasteur  
(チャンスは備えある者に訪れる。フランスの細菌学者 ルイ・パスツール)

チャンスは偶然に訪れるものではありません。備えある者、日々努力してそのチャンスを生かせる実力をつけた人に訪れます。人生は毎日の小さな事の積み重ねです。チャンスを呼び寄せることができるよう、毎日を大切に生きてください。

【一般教科 石原 万里】

●卒業おめでとう。これまで高専という中で過ごしてきました。これから、もっと色々なことにチャレンジする機会に恵まれると思います。恐れず、前向きに行動し、見聞を広めて行ってください。

【機械工学科 平尾 篤利】

●社会は一隅を照らす光を待望しています。いつまでも心ある人でいて下さいね。

【コミュニケーション情報学科 高橋 雅也】

●ご卒業おめでとうございます。真の学びは学校を卒業した後に始まります。今後のご活躍を祈念しております。

【一般教科 高橋 宏宣】

●ご卒業おめでとうございます。ぜひぜひ身近にいる他人（家族や友人・同僚、ひいては世界！）の笑顔が見られるようなことを小さなことから一歩一歩行動してください。そうすると自分の幸せに繋がります。今までの縁、これからの縁を大切に。青野菜をしっかりと摂ること。身体の健康が基本です。石の上にも三年。辛くても三年は頑張ること。三年続ければ「実績」になりますからね。心から幸多き人生をお送りになるよう祈っています。

【コミュニケーション情報学科 松江 俊一】

●ご卒業・修了、おめでとうございます。これで人生の階段を1つ上ることができたと思います。これからも、このようにワンステップずつ確実に目的を達成して行って、大きな夢を実現してほしいと思います。今後の御活躍を期待しております。

【機械工学科 高橋 章】

●ご卒業おめでとうございます。これから皆さんには新しい環境が待っており、不安や戸惑いがあるかもしれませんが、初めが肝心です。周りの人より少しでも努力することを忘れないで下さい。ご活躍を願っております。

【物質工学科 梅澤 洋史】

●おもえば長いようで短かった高専生活だったことでしょうか。めいっばい、満喫できましたか？でも、試験やレポートなど、大変なことも多かったかもしれません。とうとうこの学校から卒業です。うんと立派になって、社会に貢献できる人間になれることを祈ります。

【電気工学科 山田 貴浩】

●「自分は幸福ではない、と思う者は幸福ではない」（ローマの哲人・セネカの言葉）

卒業生の皆さん、幸福に気づく人になって下さい。

【一般教科 笠井 哲】

●この5年間、7年間の学校生活では、たくさん思い出ができたことと思います。それは、この先の生活においても必要とされる場面が出てきます。「たくさん思い出を経験に変えて」この先もがんばってください！

【建設環境工学科 齊藤 充弘】

●丈夫で長持ち、安定性の優れた"もの"や"しくみ"を生み出す技術者になってください。

【物質工学科 青木 寿博】

●まずは全力で。悩む前に自身に科せられた問題に「主体的に」立ち向かってください。結果は必ずついてきます。

【コミュニケーション情報学科 松本 行真】

●義理の兄との会話で一番印象に残っている言葉を贈ります。「仕事なんて面白いわけが無い。金がもらえて面白いなんて虫が良すぎる。」面白い仕事に就けた人は幸運です。面白くなくても、仕事とはそんなものかもしれません。面白くない仕事の中に、少しでも面白さを見つかる努力が要るのかもかもしれません。健闘を祈ります。

【物質工学科 鴨下 祐也】

●自分にだけはウソをつかない。自分であり続けるために。

【civil TK】

●錢の言葉として、「人事を尽くして天命を待つ」を送ります。努力が結果に現れないこともしばしばですが、とりあえず、やれるだけやって、後は運に任せましょう。

【一般教科 鳥居 孝栄】

●「20に蠟燭が斧を振るもよし、30に身の尺を作るべし」笑顔でまた来校できるよう、それぞれのご健闘を祈念いたします。

【電気工学科 濱崎 真一】

●ご卒業おめでとうございます。これから一日の大半の時間を仕事（会社での仕事、大学での勉強、ある人は家庭における家事）をどうとらえるかで、人生は大きく違ってきます。そこで、ロシアの作家ゴーリキーの言葉を贈ります。「働くことが楽しみなら、暮らしはすばらしくなる！働くことが義務になったら、一生奴隷ぐらしたよ！」（劇「どん底」より）。

【一般教科 道上 達広】

●ご卒業おめでとうございます。みなさんは、これから「社会」という大海への航海をはじめられるわけですが、できるだけ多くの海を渡り、港に寄航し、いろいろな文化や考え方を学んでほしいと思います。そして、そこで得た人生の航海話を後輩に伝えるために、時々母校に立ち寄って話をしにきて下さい。みなさんの発展をお祈りします。

【電気工学科 三浦 靖一郎】

●おめでとうございます。進学する人も就職する人も目標(夢)を持って、それぞれの道で頑張ってください。また、何をすることも健康が第一です。体には十分気をつけて実力を発揮してください。

【機械工学科 篠木 政利】

●「謙虚」に自らを振り返り、「果敢」に前進を目指せ。

【建設環境工学科 根岸 嘉和】

●ご卒業おめでとうございます。「この道より我を生かす道なしこの道歩く」武者小路実篤の言葉で、私の心の拠り所です。色々、迷うこともあるかと思いますが、自分を信じて頑張って下さい。

【物質工学科 青柳 克弘】

# 平成20年度 卒業生・修了生の進路状況

進路対策委員長 原田 正光

平成20年度卒業生についての企業からの求人は昨年度1月くらいから本格化し2月から3月にかけてピークを迎えました。4月に新年度が始まった時には今年度に限らずあと数年はこの調子が続くのではないかと思うほどの好調感がありました。今年度の最終的な求人数は808社から合計2200人を超え、平均求人倍率は25倍を超える結果となりました。しかし、年度後半以降の戦後最悪と言われている世界的な不景気を反映して、平成19年度の求人倍率約27倍を超えるまでには至りませんでした。このようななか、平成21年度の卒業生を対象とした求人がすでに始まっており、現時点で400社近くからの求人があります。ものづくりの現場で、若くて優秀な人材を求める企業の傾向は続いているようで、このまま進行してくれることを祈りたいものです。

学に加え、国公立大学や私立大学への編入学に総勢91名もの合格者を出すことができました。今年度は卒業生のほぼ半数が大学等に編入学する状況となっております。一方、専攻科からの大学院への進学もおり、今年度は東京工業大学大学院をはじめ5名の修了生が大学院への進学を決めています。最近本校入学時から、大学等や大学院への進学を希望する学生が多く見られますが、在学中計画的に受験勉強に取り組んだ成果が表れているようです。

本校では、4年次後半から進路別学習の時間を設けて、就職や進学の指導にあたっていますが、いち早く自分の進路を意識し継続的な取り組みを行ってきた学生が良い結果を出しているようです。就職戦線の早期化傾向は続きますので、現4年生には早めのしっかりとした対応で臨んでほしいと思います。

## 卒業生の進路 (平成21年3月卒業)

( ) は女子学生

区分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業者数	34 ( 0 )	36 ( 3 )	37 ( 15 )	34 ( 13 )	40 ( 31 )	181 ( 62 )
進学者数	15 ( 0 )	14 ( 2 )	21 ( 6 )	19 ( 3 )	22 ( 15 )	91 ( 26 )
就職者数	16 ( 0 )	22 ( 1 )	15 ( 8 )	14 ( 9 )	17 ( 15 )	84 ( 33 )
各種学校その他	3 ( 0 )	0 ( 0 )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	1 ( 1 )	6 ( 3 )

## 専攻科生の進路 (平成21年3月修了)

( ) は女子学生

区分	機械・電気 システム工学専攻	物質・環境 システム工学専攻	ビジネスコミュニ ケーション学専攻	計
卒業者数	12	6	8 ( 5 )	26 ( 5 )
進学者数	3	2	0	5 ( 0 )
就職者数	9	4	8 ( 5 )	21 ( 5 )

先輩達から後輩の皆さんへ進路についてアドバイスをいただきました。

### 就職 機械工学科5年 澤田 克麻

5年間を振り返ると、とても充実している一方で、悩んだこともたくさんあったことが思い出されます。高専祭など楽しい学年行事をたくさんの友達と過ごせて、とてもいい高専生活を送れたと思っています。しかしその反面でつらいこともあり、3年生から4年生にかけて忙しくなり、5年にもなると卒業研究やレポートの提出でとても忙しい一年になりました。

これから卒業するにあたって在校生に伝えたいことは、楽しい学校生活を送るためにはもちろん思いやりや友達と遊ぶことが大事ですが、そのために学生としてやらなければいけないことははじめをつけて一生懸命やるのが何より大切です。友達が多い方が勉強もしやすいし、高専生活を楽しく過ごせると思います。最後に一つだけ言えることは、後悔しない決断をすることだと思います。

### 進学 電気工学科5年 角田 憲司

皆さんは自分の進路について具体的に決めていますか？まだ決まっていない人もたくさんいると思います。私は、はじめは就職しようと考えていました。しかし、大学の説明会を受けた友達からその大学を勧められました。その大学は私の好きな情報の分野について深く勉強できる場所でした。なので、私は、その大学を受けることにしました。そして、先生方に面接の練習をしてもらうなどして大学に受かることが出来ました。私は友達や先生方の助けにより進学することが出来ました。皆さんも自分の進路について自分で調べるだけでなく周りの友達や先生からも情報を集めるとよいと思います。それでも最後は自分で決めなければなりません。皆さん自分の進路を実現するためにがんばってください。

### 進学 物質工学科 5年 小野 和佳奈

物質工学科、今年度の進学状況を。進学率は60%でした。行く気があれば、全員が国立大学に進学できます。一人の受験校数は平均2校、合格率は70%です。6月頃から受験が始まり、難関校の受験日は8月後半から9月にかけて集中しているので、夏休みが終わるころには、みんな進路が決定している状況になります。就職組はもっと早く内定しますので、プレッシャーは大きいです。また、受験が試験や卒研の中間発表とかぶるので頑張ってください。

受験勉強では、高専生らしく過去問を研究するべきだと思います。そして、どうしても追い詰められたら、受験5日前くらいに「でも、ひととおりやることやったでしょ？」って誰かに言ってもらってください。ご健闘をお祈りします。

### 進学 建設環境工学科5年 伊藤 聡志

私は3年生のころ、高専卒業後の進路について漠然と就職を希望していました。しかし、4年生になって、友人達がそれぞれ希望する進路に向かって努力している姿を見て不安になり、先生方や両親とも相談して進学することに決めました。そして、本校の専攻科を受験し、合格することが出来ました。スタートで遅れをとったこともあって、受験には様々な苦労がありましたが、後悔はありません。

低学年の皆さんは進路を決めるのは先のことだと思っているかもしれませんが、私のように直前で迷わないように、よく考えてほしいと思います。4、5年生は、今の進路でいいのかももう一度よく考えてみてください。今からでも間に合います。後悔しない決断が出来るように頑張ってください。

### コミュニケーション情報学科5年 石川 友里恵

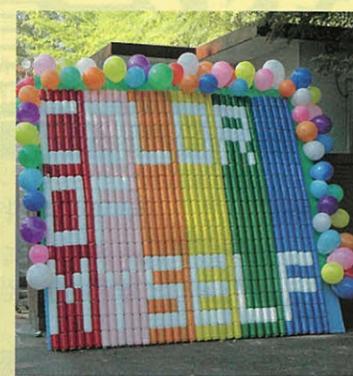
「幸運は大胆な人達に微笑む」これは高専で出逢った恩師に教えて頂いたヒポクラテスの言葉です。就職活動のスタートは試行錯誤の連続と自分との戦いの日々でした。時に「大学卒」という採用条件や高専に対する社会の一部の誤解に悩まされる時がありました。

後輩の皆さんも、劣等感を感じ自信をなくす事があるかもしれません。しかし、それは間違いです。あなたの人間性や高専生の能力を高く評価し、必要としてくれる企業は必ずあります。失敗であっても苦勞であっても、全ての経験は必ずあなたを大きくしてくれます。高専での生活や自分が培ってきた能力を最大限に発揮し、失敗を恐れず自信を持って大胆に挑戦して下さい。出逢いや縁を大切に、感謝の気持ちを忘れなければ必ず成功します。

### 物質環境システム工学専攻2年 小泉 圭

私は、本科と専攻科の計7年間を高専で学び、来年度には社会人となります。学生である以上最終的には、誰でも職に就くはずですが、しかし、職と言っても様々な種類があり、どんな仕事でも良いわけではないと思います。私は、常に関心と向上心を持つ仕事に就きたいと思いました。そして、在学中に関心を持てる分野に出会うことができ、希望した就職先に入ることが出来ました。高専生活は長く忙しい生活を送ると思いますが、まずは関心を持てることを見つけていくのが大事だと思います。そして、自分の希望を叶えるために何をすべきかを考えて、知識をつけることや資格を取得するなどの目標を立てて、それに向かって高専での生活を過ごしていくことが大切なのではないかと思っています。





# 高専祭

Color  
Of  
Myself



## 20年度高専祭を終えて

学生主事補 島袋 修

平成17年度に高専祭の毎年開催を目標に掲げて今年度で4年連続の開催となりました。19年度は創立45周年記念ということで、大規模なものでした。今年度は、今後、本格的に毎年開催として続いていく高専祭の基本的な型を作りあげていくことを目標に実行委員と共に活動しました。

今年度の高専祭テーマ"Color Of Myself"には学生一人一人が個性を尊重しあい美しいグラデーションを描けるような行事にしたいという意味がありました。

まず高専祭は前日の前夜祭からスタートします。高専生による高専生のための盛大な催し物です。5学科対抗により、学科ごとに特色あるダンスあり映画ありで学科内の結束力を強めることが出来ました。

次の日の本祭は大きく分けて3つの企画から成り立っています。5つの専門学科それぞれ特色ある学科展示、2つのセンター、クラス、部活動、愛好会単位での展示や催し物そして高専祭実行委員会を中心とした企画。

これら、すべてに手を抜くことなく学生が一生懸命準備に取り組む姿を近くから見る事ができたことに感謝しております。もちろん、その成功は多くの教職員の多大なるご尽力と保護者と地域の皆さま方のご理解、ご協力の賜物だと思っております。心から感謝申し上げます。

また、今回、一般教科 布施准教授を中心とした学生支援GPの協力を受け全国高専でも初めての取り組みが試みられました。例えばSNSを使った連絡、打ち合わせや文書作成です。これにより、コミュニケーションが密になり、お互いが連絡を取りたいときに取り合うことができ、次年度以降にも引継ぎが楽に行なえるようになりました。これ以外にもたくさんの新しい試みがありました。今後もそれらを発展させていきたいと考えております。お世話をしてくださった布施先生にこの場を借りて心から感謝いたします。

## 高専祭

建設環境工学科 4年 植田 耕平

平成20年度高専祭にお越しくださりました方々、また協力して下さった地域の方々、本当にありがとうございました。無事に高専祭を開催することができたのも、地域の皆様のおかげと感謝しております。

今年度は学生会主体の小規模な開催となりましたが、大成功で終わることができたのではないかと思います。定期的に行った委員長会議や、すべての委員会の学生の一生懸命な活動のおかげで、前夜祭・本祭ではスムーズに進行することが出来ました。今回の高専祭のテーマであった『Color Of Myself』。テーマどおり、学生の個性あふれる高専祭となったのではないのでしょうか。

来年度も高専祭は開催する予定ですので、是非また福島高専祭におこしく下さい。学生一同お待ちしております。



# 学年・学科行事

福島高専では11月13日(木)・14日(金) 両日にわたり、学年・学科行事を実施しました。本行事は、企業・施設の見学を通じて専門に対する興味、見識を深めるとともに、今後の進路を考える上での参考にすること、また、スポーツ交流等を通じて学科を越えた交流を図ることを目的として実施されています。

今回はその中から見学旅行に参加した学生の皆さんに、感想を述べてもらいました。

## 機械工学科

### 機械工学科 3年 平野 信

「工場の環境とは?」「特殊紙とは?」。これが今回のキーワードだった。NC工作機械を作っている「ツガミ」では、電気や外装部門など機械の各箇所で作業場を分けていた。そのどこを見ても組み立てる予定の部品が、扱いやすいように配置されていてとても綺麗な作業環境だった。北越製紙では、わたあめ程度の柔らかい素材から、薄いプラスチック程度の紙を作れることを知り感動した。他にも手で切れない紙などの特殊紙を知り、材料学に興味を持った。この見学により「工場」「就職」に対して新しい考えが生まれた。



### 機械工学科 4年 大澤 晋作

今回の目的地は製鉄所のJFEスチールと三井造船です。工場見学では、実際の作業現場や製鉄所、造船の過程や船内を直接見て肌で直に感じることができ、その職に就かなければ二度と経験することのできないような貴重な体験をしてきました。

機械科は夕食を横浜中華街で90分のコース料理を30分で食べました。夕食後は友達と中華街を散策し、栗を渡す兄ちゃんや、必死で中華饅頭を買わせようとしている小母ちゃん達を回避しながら夜の横浜市内を満喫しました。この二日間は有意義で就職にとっても参考になる充実した時間でした。

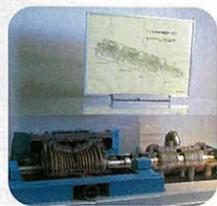


## 電気工学科

### 電気工学科 2年 須田 拓馬

今回の学年行事では、2箇所の発電所を見学しました。まず、原町火力発電所は、東京ドーム33個分の敷地面積にたくさんの施設があり、石炭による火力発電や、環境に配慮した排煙処理の仕組みについて学びました。

次に福島第一原発では、実物大の原子炉の模型による説明、原子炉建屋にいるような疑似体験を含めながら、発電の原理について詳しく学ぶことができました。今回の見学で一番感じたことは、「近年の発電施設は環境への配慮をしている。」ということです。



### 電気工学科 4年 日下 和也

学年・学科行事を行うに当たって、学校から補助金が支給される。今年、電気工学科には約32万円の補助金が支給された。そして、その全額が私たち第4学年に支給された。なぜこのような大金が1学級45人の学生に支給されるのか。それは、工場や研究所内部を見学させて頂き、企業の方から採用情報などを伺うことで、将来の進路決定に役立つためである。この目的を理解した上で、日本が技術者立国を目指した当時の苦勞から、最先端の技術までを体験することができ、今後すべきことは何か、はっきりさせることができた。



## 物質工学科

### 物質工学科 4年 西山 侑太郎

4年物質工学科は、1日目に明治乳業と日本触媒、2日目に新日本石油と味の素の工場を見学してきました。2日間で4つの工場を見学するというハードな日程でした。しかし、工場を見学する機会が学校行事以外ではほとんど無いので、僕たちはそれぞれの工場の技術、取り組み、また各業界について、真剣に学んできました。

今回の学年行事は、自由時間が少なかったものの、これから進路を決める僕たちにとって非常に有意義なものとなりました。



### 物質工学科 3年 猪狩 佑允

3年物質工学科は、東京農工大と日清オイリオ横浜磯子事業所の見学に行きました。

東京農工大では、校内の見学をしました。分析機器や図書館など、どれも高専のものよりも立派で、大学の素晴らしさに感心させられました。また、本校物質工学科から編入した先輩の体験談なども聞くことができました。日清オイリオでは、おもに食用油の製造過程を見せていただきました。規模の大きさに驚愕しました。

今回の学科行事は大変有意義なものとなりました。今後の進路の参考にしていきたいと思います。



## 建設環境工学科

### 建設環境工学科 4年 目黒 龍太

私たち建設環境工学科4年生は横浜、東京方面で陸、海、空それぞれ学科に関連する現場見学を行いました。東京外かく環状道路では地盤工学で習ったことが現場で活かされていました。横浜港は日本を代表する国際貿易港で、その巨大な港をいざ目にする現在の姿に至るまで発展に貢献した人々の努力や苦悩が垣間見えました。羽田空港では本校を卒業した先輩の方が第一線で活躍していました。

今回の学年・学科行事を通じて、建設業の重要性を改めて知ることができ、将来のビジョンがより明確となりました。



### 建設環境工学科 3年 金賀 雄太

今回、僕たちは学年行事で会津へ行きました。

印象に残ったのは、1日目の工事現場の見学と2日目の班別行動です。見学では、建設途中の橋を見てきました。福島から米沢をつなぐ橋で、谷底から40メートルくらいの高さがあり、エレベーターを使って上りました。そこでは現場の人の話を聞くことができ、授業では分からないことを知ることができました。また、現場の雰囲気を感じることもでき、とても勉強になりました。

班別行動では、鶴ヶ城や会津の町並みを歩きました。会津は古い建物がたくさん残っていて、きれいな街だと思いました。とても楽しい2日間を過ごすことができました。



## コミュニケーション情報学科

### コミュニケーション情報学科 1年 目黒 茜

私達にとって初めての学年行事は、茨城県の筑波市にある二つの施設の見学でした。

筑波宇宙センターでは日本が行っている宇宙への取り組みや、実際に宇宙で使われた人工衛星などさまざまなものを見ることができました。また、サイエンススクエアでは普段触れることのできない科学を体感することができ、人間と科学が密接に関わっているということが改めて分かりました。

これら二つの施設見学を通して、グローバルな視点と世界最先端の技術を学ぶことができ、私達一人一人の将来について考えるよいきっかけになりました。



### コミュニケーション情報学科 4年 渡邊 真菜花

私たち4年コミュニケーション情報学科は1日目に東京証券取引所と日本科学未来館を見学しました。東京証券取引所では会社の概要をわかりやすくまとめたビデオを見た後に社内を案内していただきました。未来館では興味をひく展示物がいくつかあり、思いのほか面白かったです。2日目は大学・企業等訪問日だったので、私は横浜国立大学を見学しに行きました。大学を見学したことによって編入に対する士気が高まり、良い刺激となりました。また、友人と楽しい時間を過ごすことができ良かったです。



# 学生の活躍

## 学生表彰

### 特別表彰

- TOEIC検定試験900点 モハマド・アミルル・ビン・アブドゥル・ラシド (3M)
- 全国高専体育大会 水泳競技女子50m背泳ぎ 5年連続優勝 大原 早樹 (5K)
- 平成20年度国立高等専門学校学習到達度試験 (物理) オイドブドルジ・ガンクヤグ (3E)
- 電気工学系全国1位 川上 欣洋 (3C)
- 物質・化学工学系全国1位

### 学会表彰

- 社団法人日本機械学会 (畠山賞) 会田 寛正 (5M)
- 電子情報通信学会東北支部 優秀学生賞 板津 和任 (5E)
- 電気学会東北支部 優秀学生賞 齋藤 亮介 (5E)
- 日本化学会東北支部長賞 田中 愛里 (5C)
- 全国高専土木工学会 (近藤賞) 伊藤 聡志 (5K)
- 社団法人全国経理教育協会 簿記能力検定1級賞 渡邊 祐樹 (5I)・佐藤 寛子 (5I)・杉下 和加奈 (5I)
- 電子情報通信学会東北支部 学生優秀論文賞 樋田 雄士 (2ME)

### その他の表彰

- 浜通り管内技術業務報告会 優秀賞 「いわき市における法面緑化に関する研究」 倉持 尚子 (1CK)

# クラブ活動等の結果

## 体育部

### 平成20年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技【男子】			
やり投	佐藤 博紀 (2M)	第8位	
■バレーボール【男子】			
団体		2回戦敗退	
■ソフトテニス【男子】			
ダブルス	関本宏佑 (2E)	2回戦敗退	
	関根大樹 (2K)	1回戦敗退	
■テニス【男子】			
団体		1回戦敗退	
シングルス	武田 章宏 (2K)	ベスト16	
【女子】			
シングルス	塚本 仁美 (2I)	1回戦敗退	
■卓球【男子】			
学校対抗		ベスト8	
シングルス	松本 知也 (1I)	ベスト14	
	永井 一喜 (2M)	ベスト16	
	桑嶋 隆 (1M)	ベスト32	
	江尻 義史 (2K)	ベスト32	
	渡辺 大樹 (2K)	ベスト32	
ダブルス	永井 一喜 (2M)	ベスト8	
	渡辺 大樹 (2K)	ベスト8	
【女子】			
学校対抗		準優勝	
シングルス	猪狩 美咲 (2C)	ベスト8	
	小野 緑 (2K)	ベスト12	
	安島 真理 (2I)	ベスト13	
	安島 恵理 (2I)	ベスト32	
	小野 仁美 (1I)	ベスト32	
ダブルス	猪狩 美咲 (2C)	ベスト8	
	安島 恵理 (2I)	ベスト8	

■水泳【男子】			
50m自由形	北澤 春樹 (1M)	入賞なし	
	吉田 周平 (1M)	棄権	
100m自由形	吉田 周平 (1M)	棄権	
	西間木悠輔 (2M)	入賞なし	
200m自由形	西間木悠輔 (2M)	入賞なし	
400m自由形	北澤 春樹 (1M)	入賞なし	
100m平泳ぎ	矢羽々寛和 (1M)	入賞なし	
200m平泳ぎ	矢羽々寛和 (1M)	入賞なし	
100m背泳ぎ	若松 大介 (2E)	入賞なし	
200m背泳ぎ	若松 大介 (2E)	入賞なし	
100mバタフライ	星 丈弘 (2K)	入賞なし	
200mバタフライ	星 丈弘 (2K)	入賞なし	
200m個人メドレー	山口 修平 (1K)	入賞なし	
400m個人メドレー	山口 修平 (1K)	入賞なし	
400mリレー		入賞なし	
400mメドレーリレー		入賞なし	
【女子】			
50m自由形	猪狩あゆみ (2M)	入賞なし	
200m自由形	猪狩あゆみ (2M)	入賞なし	
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (2I)	第6位	
200m平泳ぎ	高橋 奈々 (2I)	第6位	
■空手道【男子】			
団体組手		予選敗退	
個人組手	角田 幸司 (2C)	3回戦敗退	
	会田 崇人 (1M)	2回戦敗退	
	中村 晃太 (1M)	2回戦敗退	
	洲崎 翔太 (1I)	2回戦敗退	
団体形		第6位	
個人形	会田 崇人 (1M)	3回戦敗退	
	角田 幸司 (2C)	2回戦敗退	

■バドミントン【男子】			
団体		2回戦敗退	
ダブルス	星野 佑一 (2M)		
	佐藤 一貴 (2E)	2回戦敗退	
シングルス	星野 佑一 (2M)	2回戦敗退	
	佐藤 一貴 (2E)	2回戦敗退	
	志賀 匠 (1M)	2回戦敗退	
【女子】			
シングルス	佐藤 春香 (2C)	2回戦敗退	
■ボクシング			
バンタム級	村上 和誠 (1M)	第1位	(東北大会出場)

### 第20回東北高等学校ボクシング新人大会

バンタム級	村上 和誠 (1M)	1回戦敗退
-------	------------	-------

### 東北地区高専体育大会福島大会

ラグビーフットボール競技		第3位
--------------	--	-----

### 第53回福島県高等学校駅伝競技大会

陸上競技部 男子総合		第30位
鶴名山 俊 (3C)	勝沼 将人 (3C)	
松山 雄紀 (3K)	藁谷 誠人 (2E)	
遠藤 達也 (1C)	森 圭介 (1C)	
坂口 拓馬 (1K)		

### 第6回福島県高等学校秋季ソフトテニス選手権大会

【男子】			
団体		予選敗退	

### 第35回福島県ジュニアダブルステニス選手権大会

【男子】			
ダブルス	武田 章宏 (2K)		
	菅野 晃司 (2I)	ベスト16	
	大平 悠介 (2E)		
	須田 拓馬 (2E)	3回戦敗退	
【女子】			
ダブルス	塚本 仁美 (2I)		
	他高校選手	ベスト16	
	吉田 美香 (1C)		
	戸井田 陽 (1I)	1回戦敗退	

### 第28回福島県春季ジュニアシングルステニス選手権大会

【男子】			
シングルス	武田 章宏 (2K)	2回戦敗退	
東京卓球選手権 県予選ジュニアの部			
【女子】			
シングルス	松本 知也 (1I)	ベスト8	
	桑嶋 隆 (1M)	ベスト16	
	永井 一喜 (2M)	ベスト32	
	佐藤 勇人 (1K)	ベスト32	

### 天皇杯・皇后杯 平成20年度全日本卓球選手権大会

【女子】			
ジュニアシングルス	安島 真理 (2I)	2回戦敗退	
一般シングルス	西山 綾香 (5I)	1回戦敗退	

### 第32回東北高等学校選抜卓球大会

【女子】			
学校対抗		予選敗退	

■サイクリング部			
夏合宿及び第52回全国サイクリング大会in福島		参加	
第2回いわき市わくわくサイクリング大会		参加	
■山岳部			
鬼ヶ城山登山		実施	
■文化部・研究会・愛好会			
■吹奏楽部			
第36回福島県アンサンブルコンテスト			
クラリネット5重奏		銀賞	
金管5重奏		銅賞	
第46回いわき市吹奏楽新人演奏会		参加	
■将棋部			
・第17回全国高等学校文化連盟将棋新人大会			
福島県大会	長谷川 涼 (2E)	ベスト16	
	猪狩 直也 (1C)	ベスト16	
	博多 大樹 (2E)	1回戦敗退	
	浦住 僚 (1C)	1回戦敗退	
	芳賀 正幸 (1C)	1回戦敗退	
■茶華道部			
・いわき学校茶道連盟第26回合同発表会		参加	
■写真部			
・夏井川溪谷紅葉撮影		実施	
・裏磐梯紅葉撮影		実施	
・いわき地区高等学校写真連盟写真展			
	緑川 真澄 (1C)	準特選	
	佐藤 優海 (1K)	入選	
	小浦方優美 (1C)	入選	
	田村 啓 (1K)	入選	
	宮本 祐希 (3I)	入選	
・東北地区高等専門学校文化発表会 写真部門			
	佐藤 大志 (4M)	特選	
	田家 亘 (1C)	入選	
・全国高等専門学校第19回プログラミングコンテスト撮影		実施	
・東北地区高専体育大会福島大会ラグビーフットボール競技撮影		実施	
・高専祭『写真展』		開催	
■美術部			
・東北地区高等専門学校文化発表会 絵画部門			
	佐々木裕香 (4I)	特選	
■ロボット技術研究会			
・アイデア対決・全国高専ロボコン2008			
東北大会(仙台電波高専体育館)			
・福島高専Aチーム「VictoryFactory」		1回戦敗退・特別賞	
	小林 大 (3M)	菅家 麻美 (2M)	
	布田 大祐 (2M)		
・福島高専Bチーム「Time egg」		2回戦敗退	
	馬場 将亮 (3M)	大竹 剛史 (2K)	
	小泉 裕貴 (1M)		
■プログラミング愛好会			
・全国高等専門学校第19回プログラミングコンテスト【自由部門】		敢闘賞	
	遠藤 周平 (4I)	赤塚 篤 (2E)	
	松島 弘 (2E)	大森 敏貴 (1E)	
【競技部門】		準決勝敗退	
	赤津 裕太 (2E)	二瓶 茂樹 (2E)	
	江藤 奨平 (1E)		
■デザイン創造愛好会			
・全国高等専門学校デザインコンペティション2008			
【構造デザインコンペティション部門】		第14位	
	小野 雅裕 (5K)	高橋 健太 (5K)	
	田久 智行 (5K)		
【空間デザインコンペティション部門】		予選敗退	
	佐川 洋亮 (5K)	仲西 唯 (5K)	
	松本 宗浩 (5K)		

# OBからのメッセージ

## ああ朋がらよ眉あげよ

機械工学科第17回生 小松 道男 (昭和58年3月卒業)



技術士事務所を開設して15年目を迎える。28年前の技術士土居威男先生との出会いがなければ今の私はありえない。人生はどんな人々に接するかで大きく左右される。福島において秀逸な異次元の先生達、学友と出会える数少ない場所の一つが福島高専であろう。努力に運も味方して技術士第二次試験を史上最年少(27歳1か月)で合格することができた、そして私の人生が大きく変貌を遂げた。

最近、植物由来生分解性プラスチックの金型技術と超臨界微細発泡成形の技術開発を核としてコンサルティングに奔走している。研究成果がようやく社会に認められ、MITや京都大学の教授と同じ席に着いて議論が許されるようになってきた。これらの研究は、経済産業省等の研究公募制度に採択されたものであり福島高専卒業生の私が起案した研究提案が並み居る有名大学卒業生との激しい競争を何回も勝ち抜けた背景には現場の出来事をよく観察し分析した「実学」があったからだと考えている。私の「実学」の原体験は機械工作実習にある。大和田国夫先生らに檄を飛ばされながら鑄造や旋削実習をして会得した「技術者であろうとするならば現場の感性を知れ」という魂が根底に流れている。

毎週月曜日には知的所有権講座(5MEC、全専攻科)の非常勤講師を拝命している。この授業は、佐藤辰彦先輩(C1、内閣府知的財産戦略本部有識者本部員、元日本弁理士会会長)らが発案し全国高専に先駆けて開設された。在校生諸君が社会で活躍するにあたり実益のある有意義な授業にしようとする奮闘努力している次第である。高専卒業生のハンディキャップは大学に比較して学友の数が少ない点、しかし数は少なくとも結びつきは強固である。卒業生の皆さんには学友や教官との人脈を大切に社会で飛翔して欲しいと願っている。努力は決して期待を裏切らないと確信している。(写真:デュッセルドルフにて)

## 「がむしゃら」という能力

電気工学科第31回生 山田 寛章 (平成9年3月卒業)

在校生の方々へ向けたメッセージを、と依頼を受けたのですが、勉強も部活も半端な結果しか残せなかった自分が偉そうに学校生活についてアドバイス出来る立場でもありませんので、卒業して10年以上経つOBという立場に立って社会人としていずれ高専を卒業してくる皆様方に意見を述べさせていただきます。

私は平成9年3月に電気工学科を卒業し、4月にNTTファシリティーズという会社に入社しました。聞きなれない会社かとは思いますが、業務内容は多岐に渡っており、私は入社してから主に東京都内のNTTビル及びドコモビルにおける通信用電源装置構築工事の保守、設計・監理業務に携わっています。固定電話、携帯電話での通話およびインターネットがいつでも普通に使えるような信頼性の高い電源システムを構築している、といえは漠然とお分かり頂けるでしょうか。

私が今所属している部署は社内でも一、二を争う多忙な部署で、当然NTTやドコモの投資計画に関わる業務内容ですので精度とスピード、何より根拠の明確さが厳しく要求されます。同時に後進の育成も任されて入社1年目乃至2年目の若手社員を育成計画の一環として半年間指導します。とはいえ仕事の成果がお客様の投資に直結しますので、右も左もわからない後輩に一から仕事を教

# 退職者の言葉

福島高専を退職される教職員の皆さん。ありがとうございました。

## けやきの成長と共に

電気工学科 教授 渡辺 博



1967年(昭和42年)3月に第一期生として福島高専電気工学科を卒業後、仙台の東北大学に17年間勤務し、その後縁あって1984年(昭和59年)4月から福島高専に講師として転出以来25年が経過し、この3月で定年を迎えることになりました。福島高専での教員生活は、高専のOBとして、まさに本校のシンボルツリーである「けやきの成長と共に」歩んだ25年間であったような気が致します。

この間様々な活動を通じて、個性と若さ溢れる多くの後輩学生諸君に巡り会い、楽しく充実した教員生活を送ることができました。これもひとえにこれまでご支援頂いた多くの教職員各位のご理解とご協力及び学生諸君の支えがあったからこそと深く感謝すると共に、最後に関係各位のご健勝と今後の福島高専の益々の発展を心から願っています。

## 退職者

- 総務課長補佐(財務担当)兼環境マネジメント室長 合津 忠一
- 学生課学生支援係長兼寮務係長 西村 栄
- 技術部総括班長(技術専門職員) 馬目 孝男

え、スケジュール管理と成果のチェックが欠かせません。もちろん、自分の仕事は別に進めつつ。教わる側の後輩の学歴は大学院卒、学部卒そして高専卒と様々ですが10年近く育成に携わってある「傾向」があることに気付きました。

それは高専卒の人たちの方が「がむしゃら」であるということ。院卒、学部卒は高専卒よりも人生経験を積んでいるせいか、自分で「限界」を作ってしまうことが多いと感じます。「自分はここまでやれば十分だ」と勝手に線引きしてしまうのです。「すいません、僕はもうこれ以上無理です。」という言葉を出すのはほとんどが大卒以上の人たちで、高専卒の人たちからは「大丈夫です。まだいけます。」という言葉が返ってくることが多い。これを書きながら過去に指導した後輩たちを思い返してみても、やはり精神的にタフだったのは高専卒が多いです。

私は「学校で習ったことは社会では役に立たない」という言葉は好きではありません。それを役に立てるかどうかは本人次第だと今でも思っています。自分は学生時代に一生懸命勉強しなかったもので、役に立てることが出来る「もの」すらないのですが…。ただ、高専から社会に出る人、または大学に編入を考えている人いずれにとっても「がむしゃら」という気持ちだけは忘れないください。自分で小さな限界を作らないでください。

予想していたとおり取り止めのないメッセージになってしまいましたが、皆さんが充実した学校生活を送れますように、またいずれ社会に出てからも母校での生活が役立ちますように願っております。

# 第8回「福島県中学生ロボット競技会」を終えて

= 県内から23チームが参加 =

競技会実行委員長 佐東 信司

本校主催の県内中学生を対象としたロボット競技会は、第8回目を迎え、いわき市、郡山市、須賀川市、双葉郡、岩瀬郡など県大会に相応しく広域から参加し、選手・応援団・観客等を合わせて約250名の中で熱気溢れる競技会が本校第1体育館で平成20年12月21日(日)に開催された。

開会式では初出場の小名浜第一中学校の林咲季選手が選手宣誓し、その後、今回の競技会を含め、5回以上ご指導された顧問教員(吉井史之先生(郡山2中)、関和彦先生(楡葉中))へ「モノづくり教育への貢献者」として感謝状を贈呈した。

出場ロボットは基本競技と応用競技の2種類の競技を行うため、本校が提供した駆動部の規定部品等を用いて、ロボットの大きさをA4用紙以内でロボットを作製した。今回の競技名を「灯台めぐり」と名付け、両競技の評価で総合優勝を決定します。

### ◆登坂競技(基本競技で毎年実施している)

本競技は図1に示すように、傾斜6度の登坂を含む7mの直線コースを全速力で走行するもので、これまでの記録は天栄中の4.34秒です。

今回は10秒以内で13チームがゴールし、ロボット作製と走行技術の向上が認められた。その中で、車体を低重心にして高速走行を実現した郡山二中の「ハーモニーNo.9」が3.62秒の驚異的な記録を達成した。



### ◆灯急便競技(応用競技で毎年異なる競技である)

競技時間は3分で、ゴルフボールを高さの異なる5灯台(高さ10cm:10点x2箇所、20cm:20点x2箇所、30cm:40点x1箇所)の頂上へ運び入れるとランプが点灯し、全点灯で100点になります。全点灯後にゴール地点へロボットが戻ると競技終了となります。

ロボットにゴルフボールを確保時、および灯台に運び入れた時の瞬間を図2に示す。1台のロボットで高さの異なる位置へ運び入れる機構を考案することは中学生には難題であるが、これを成し遂げた5チームがゴールした。その中で、上遠野中「走れ!奏明号」が129.4秒の記録で優勝した。競技後、選手は審査委員へロボットの特徴を説明した(図3)。

総合優勝は両競技を短時間で達成した郡山二中が昨年度に続き連覇した。来年度は打倒郡山二中を目指し、各チームのモノづくり技術と操作法の向上に期待している。



図2 灯急便競技風景



図3 審査委員へロボットの特徴説明

表1 第8回大会の成績

総合優勝	ハーモニーNo.9 (郡山二中A)	
準優勝	南中維新2008 (中央台南中A)	
	走れ!奏明号 (上遠野中A)	
登坂競技	灯急便競技	
1位	郡山二中A	1位 上遠野中A
2位	小名浜二中B	2位 楡葉中B
3位	中央台南中A	3位 郡山二中A
アイデア賞		
小名浜一中A、川部中A、藤間中A		
敢闘賞		
天栄中A、天栄中B、楡葉中B		



## いわき信用組合と産学連携協定を締結しました

福島高专といわき信用組合(江尻次郎理事長)との産学連携協力推進に関する覚書の調印式が、去る1月13日(火)に執り行われました。福島高专が金融機関と産学連携を目的とする協定を締結するのは国民生活金融公庫(現 日本政策金融公庫)に次いで2例目、いわき信用組合が高等教育機関と締結するのは初めての事例です。

本覚書は、相互の協力によって地域の産学連携を推進し、地域の中小企業支援を柱に、地域社会の発展へ貢献することを目的としています。今後は地域の情報を交換しながら、福島高专の研究成果等の技術シーズと中小企業等のニーズとのマッチング、技術相談などを行っていく予定です。また、いわき信用組合は、県内の信用組合としては唯一経済産業省の委託事業「地域力連携拠点事業」の拠点に採択されていることから、福島高专はパートナー機関として協力をしていきます。



左: 奈良宏一校長 右: 江尻次郎理事長

## 東邦銀行と産学連携協定を締結しました



中央左: 本柳博之常務取締役 中央右: 奈良宏一校長

福島高专と(株)東邦銀行(北村清士取締役頭取)との産学連携に係る協力協定書の締結式が去る1月29日(木)、同校において執り行われました。福島高专が金融機関と産学連携を目的とする協定を締結するのは日本政策金融公庫(旧 国民生活金融公庫)、いわき信用組合に次いで3例目、東邦銀行が高等教育機関と締結するのは福島大学、会津大学、日本大学工学部に次いで4例目です。

本協定は、福島高专が保有する研究シーズや、東邦銀行の持つ金融技術並びに情報及びノウハウ等を活用して、地域の発展と産業の振興、人材の育成に寄与することを目的としています。今後は、東邦銀行の全店舗に福島高专の研究シーズ集を置く等して、相互が協力して技術シーズと地域企業のニーズとのマッチング、技術相談や各種情報交換等を行っていく予定です。

そのほかのニュースは本校のホームページを御覧ください。

福島高专HP

<http://www.fukushima-nct.ac.jp/>

